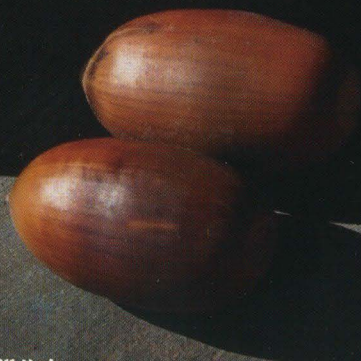


浄土

monthly 0267

9

2018
September

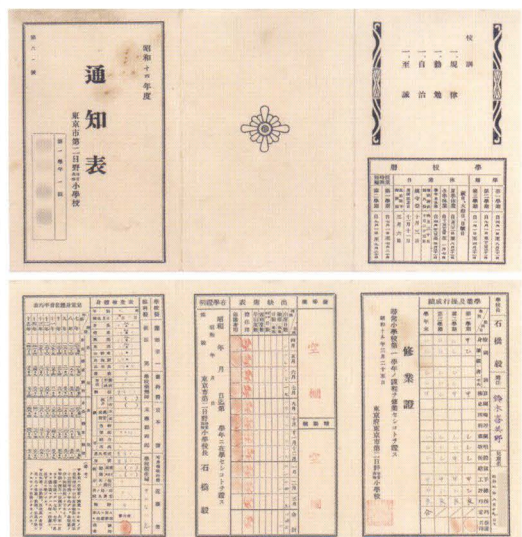


法然上人讃仰会

貧乏董

三宅政吉

グラフィック・デザイナー



左右 360 ミリの三つ折り、天地 195 ミリ。昭和 7 年生まれの Y・T くんは現在 86 歳である。まだ元気にお過ごしかもしれない。個人情報にかかわることでもあり、生徒名と保護者印はぼかしている。東京市第二日野尋常高等小學校とは、現在の品川区にある第二日野小學校のことだろうか。通知表には住所の表記がないので、確定はできないが、おそらくそうだろう。現在の第二日野小學校は、施設一休型の公立小中一貫教育を日本で最初に導入した学校らしい。

骨董市にはおかしなものが売られている。戦前の小學校の通知表などいった誰が買うのだろう。こんなものにお金を出すおかしなヤツがいるかもしれないと、業者は思っているのだろうか。つい買ってしまったわたしは、きつとおかしなヤツなのだろう。

小學校と書いたが正確には、尋常高等小學校である。買ったのは、東京市第二日野尋常高等小學校の Y・T くん、昭和十四(一九三九、第一學年)年と昭和十八(四三、第五學年、次回掲載)年の通知表である。このあいだの昭和十六(四一)年に國民學校令の施行

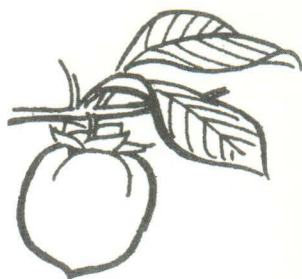
により、尋常高等小學校は國民學校となっている。同時に成績の評価も「甲乙丙丁」から、「優良可」に変わる。同年は対英米開戦(太平洋戦争)の年でもある。昭和七(三三)年八月一日生まれの Y・T くんは成績を見てみると、おおむね乙である。算術は学年末の評価が甲。注目すべきは手工の項目である。第一學期から三學期までいづれも甲の評価。手工とは、今で言う工作のことである。おそらく手先の器用な少年だったのだろう。だが圖畫は乙が並んでいる。絵を描くことよりも、手先を使った工芸的な才能があったのかもしれない。國史の欄が空白なのは、一年生では歴史の授業はなかったということだろう。總評は乙、操行は良が並んでいる。操行とは日頃の行いのことだろうか。それが良だとすると、真面目な少年だったのだろう。身体検査を見てみると、平均的な体格だったことがわかる。胸囲がやや少ないところから、瘦せ型の少年だったのだろう。眼疾に「フリクテン」とある。フリクテンとはアレルギーによる結膜と角膜の小発疹で、多くは角膜縁に近い球結膜に充血を伴う小円形の白色結節を生じ、潰瘍となる。従来は腺病質の小児や思春期の女子に多かったらしい(ブリタニカ国際大百科事典より)。「本人二對スル注意事項」に「要治療」とゴム印が押されている。治療はうまくいったのだろうか。「出缺席表」に目をやると、病欠は十二月と二月にそれぞれ一日ずつの計二日。皆勤賞はもらえないものの、立派なものではないだろうか。

(以下次回へ続く)

浄土

2018/9月号 目次

世界はもっと豊かだし 人はもっと優しい	森達也	2
連載 響流十方	袖山榮輝	10
連載 江戸の川を歩く ②3	森 清鑑	14
連載小説 渡辺海旭 ⑨0	前田和男	22
連載 マンガ さっちゃんはネッ	かまちよしろう	31
編集後記		32



表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙写真＝鬼海弘雄

アートディレクション＝近藤十四郎

協力＝迦陵頻伽舎

法然上人鑽仰会主催 平成二十九年

平成二十九年六月二十二日

於 増上寺慈雲閣

森達也氏講演会

世界

はもつと

豊かだし

人

はもつと

優しい

その
四

僕はその「A」という映画を撮ったときに、たまたま親鸞の「悪人正機」のことが書かれた本を読むことができて、びっくりしたのです。

有名な話です。親鸞が弟子の唯円に、

「お前は浄土に行きたいか」と。

唯円は、

「もちろん行きたいです」と応えます。

「じゃあ、行くために、これから人を千人殺してこい」

「いやいや、そんなことできるわけありません」

「じゃあ、何でおまえ、さっき行きたいと言ったんだ」

「いや、でも、私には無理です」

「そうだろう。人は人を殺そうと思っても殺せない。ただし、縁があれば」

親鸞は業縁という言葉を使いました。

「人は人を千人でも万人でも殺せるよ」と言うのです。

これはすさまじいです。鎌倉時代になぜそういう見識を持てたのか、とても不思議です。

まさしくこれは、この縁という言葉を言いかえれば、大義とか、正義とか、自衛とか、いろいろな言葉が使えらると思います。それさえあれば、人は人を幾らでも殺せます。優しいままで、純真なままで、善良なままで。

それはオウムであり、かつての日本軍であり、もしかしたらナチスドイツかもしれない。今のISかもしれない。

一人一人は優しい普通の人のはずです。でも、組織に入ったときに、つまり集団ですから、集団化が進んだときに、人は自分の感覚を失う。主語が消えてしまうのです。

「僕」とか「私」ではなくて、「我々」とか「我が国」とか「我が社」とか「我が教団」とか、何でもいいです。集団を主語にしてしまうのです。

当然、主語が大きくなりますから、述語も勇ましくなります。「許すな」とか「成敗せよ」とか。結局、大きな過ちを犯してしまう。同調圧力ですから、どんどん暴走する。誰もそれに対して水を差せなくなるのです。

多分、日本人は集団化しやすい民族です。言いかえたら、集団と相性がいいのです。もつと言いかえたら、僕たちは個が弱いのです。でも、これは悪いことだけではないです。いいこともあります。

例えば、高度経済成長。戦争が終わって、あれだけ東京が焼け野原になって、原爆を二つも落とされて、でも現在はGNPは世界第二位です。もう本当にこれは奇跡です。ミラクルです。

その発展できた背景に何があったか。日本の企業です。その企業を支えたサラリーマンたち、当時は企業戦士という言い方をしました。戦争中は何と

言ったか。皇軍兵士。二つに共通することとは何か。滅私奉公です。つまり、自分を捨てて奉公する。何に奉公するのか。自分が帰属する組織です。会社であつたり、国であつたり。日本人はこの傾向がとても強い。だからこそ、時には発展します。

日本人は団体プレーが得意なんです。個人プレーが余り得意ではない。でも、行き先を失うと、この団体プレーは暴走します。どこに向かっているのか、皆わからないまま走り出してしまふ。その結果、大きな過ちを犯します。

これまでも何度も繰り返しています。戦争がその最終形ではありますが、世界中にあります。世界中であるけれども、特に日本はその傾向が他の国より強いのです。

七年前にモンゴルに行きました。モンゴルの首都はウランバートルで、国の人口の半分近くがウランバートルに集中しています。ただ、国土は日本よりはるかに大きいですから、ウランバートルを抜けたらもうずっと草原です。そこを車で走りました。

羊の遊牧をあちこちでやっています。モンゴルの基幹産業ですから。でも、見ているうちに、だんだん不思議になったのです。羊の群れの中に必ず山羊がいます。割合からしたら、羊が百匹いたら山羊一匹ぐらい。だから、千頭

の群れだったら山羊が十匹ぐらい、五百匹の群れだったら山羊が五匹ぐらい、必ず山羊がいるのです。羊だけの群れはないのです。

なぜかなと思っていたら、ちょうどゲルという遊牧民のテントがあったので、通訳に聞いてもらいました。なぜ必ず山羊が混じっているのですか。答えは、「羊は頭が悪い。だから、家族が困る。でも、山羊はずるい。だから、家族が助かる」。

さっぱり意味がわからなくて、全部聞いてもらって、ホテルに帰ってから全部訳してもらったら、こういうことらしいです。

羊は単独行動が極めて苦手な生き物で、羊だけの群れにしておくと、足元の草を食べきってしまったても、誰も動かなくなる。呆然と皆んな立ち尽くしているだけで、新しい草を食べにいかない。

その結果として、どんどん毛づやが悪くなって、やせてしまうから、それを飼っている家族は困る。

ここで山羊の出番で、山羊は周りを気にしないのです。勝手に新しい草を求めて動き回ります。羊はそのあとをぞろぞろついていく。その結果として、羊は新しい草を食べて太ってくれるから、家族は助かる。

何か随分いい加減な話だなと思いつつながら帰ってきたのですが、帰って調べました。世界中、羊はこの飼育方をしています。

皆さん牧羊犬を不思議に思ったことはないですか。あんな小さな犬がなぜあんな群れをコントロールできるのか。あれは全体をコントロールする必要はないのです。一匹を追えば、羊はそろそろついてくるのです。

「山羊」から「山」をとったら「羊」なんです。つまり、山羊を家畜化する過程で、恐らく羊は自分で考えて自分で動くということがほとんどなくなってしまった生き物なんです。周りと一緒に動く、単独では動かない、その傾向がとても強い生き物になってしまいました。

日本人は多分、この羊度がとても高い生き物です。人間もそもそもそういう傾向があるけれども、特に日本人は高いです。

では、どうすればいいか。山羊を待つのか。でも、いろいろな山羊がいますよね。もう共謀罪を通して、憲法も変えて、そういう山羊だっているかもしれない。というか、いますけれども。山羊に頼ってはだめです。

では、どうするか。皆さんでちょびつと山羊度を上げましょう。ちょびつとでいいです。もし皆さんが山羊になってしまったら社会は壊れますから、ほんの少しでいいです。

要するに、皆さんが右に向かっているときにちらつと左に視線を送るとか、皆さんが「賛成」と言っているときに「うーん」と、ちょっと一瞬一拍置いてみるとか、ほんのささやかな、でも、そうしたニュアンスを置くだけでも

周りに広まります。広まることで、違う見方ができます。

このコップ、そっちから見たら長方形、でも、上から見たら丸です。たかがコップでも見方を変えるだけでいろいろなものが見えてきます。

実際の現象、人間は、とても多面的です。多様です。複雑です。どこから見ると全然違います。メディアが伝えるのは一番わかりやすくて一番刺激的な部分です。

でも、それだけではないのです。いろいろな面がある。それはなかなかメディアは報道しません。

では、僕らはどうするか。想像すればいいのです。多分今メディアがこうした情報を流しているけれども、違う視点から見れば違うものが見えるはずだ。そうした意識を持つこと、それで接すること。すると見方が全然変わります。そうして見ると、世界の見方がどんどん変わる。人に対しての見方が変わる。

今日の講題「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」、そこに近づけようと思っているのですが、よく今日の講題に関して、「おかしいじゃないか」という人がいるのです。

「だって、こんなにもう人は憎しみ合っているし、もう戦争をしているし、何が『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』だ」と。

逆なんです。だから「もっと」という言葉がついているわけです。

今、皆んなが思うよりもはるかに優しいし、はるかに豊かなんだということを言いたいのですが、皆んながそこに気づいていないのです。人は、本当はもっと優しいはずです。世界だって、もっと豊かなはずです。

特に、今日来てくれている若い人たちは法然上人で知っていましたか？

知らないですよ。ちよつと興味を持つたら調べてみてください。なかなかの人物ですから。

あの時代に法然上人がいて、親鸞聖人がいるわけですが、本当に世界の見方みたいな、人に対しての見方が徹底している人たちだと思います。

という、ちよつと山羊度を上げましょうということとで終わります。ご静聴ありがとうございます。

(了)

森達也（もり たつや）

ドキュメンタリーディレクター、ノンフィクション作家。明治大学特任教授。

著書

「A」撮影日誌―オウム施設で過ごした13カ月、現代書館、「放送禁止歌」解放出版社、「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」晶文社、「自分の子どもが殺されても同じことが言えるのか」と叫ぶ人に訊きたい…正義という共同幻想がもたらす本当の危機」ダイヤモンド社

ようごう
永劫の修行はこれたれがためぞ、功を未来の衆生にゆずりたもう。
超世の悲願は又なんの料ぞ、心ざしを末法のわれらに送り給う。

【法然上人『登山状』】

阿弥陀さまのはかり知れないほどの永い修行は誰のためかといえば、その功德を遠い未来の衆生に譲り与えて下さっているのです。あらゆる仏さまにもまして、慈悲深い誓願は、何故かといえば、その志を末法に生きる私たちに向けて 下さっているのです。

志をわれらに

「今年はおヤジ、デイケアに行つて、オレ一人なんですよお」

例年七月、首都圏の檀家を数軒、お盆の棚経にお伺いする。そのお宅は、先代が拙寺檀家の出身で、若い頃に上京し東京で事業を始め家庭を持った。大正か昭和の頭の頃だろう。御当主は東京で生まれ育った。すでに後期高齢者となっている御当主は、拙寺のある長野については戦時中の一時期、疎開した記憶がある程度だ。四十年以上前、先代が亡くなると拙寺で戒名をお授けしたものの東京近郊の霊園に墓地を求めた。御当主にとって拙寺は、「先代とご縁のあった寺」程度の認識のようであるが、お盆の棚経だけは伺わせていただいている。先年、御当主の奥さまが亡くなった。その折、息子さんからお電話をいただいた。「我が家の宗旨」の確認であつた。葬儀社に葬儀を依頼した際、何宗であるか問われたという。「葬儀に出向きましょうか」と申し出たが、葬儀社に紹介してもらうという。これを機に、あらためて菩提寺を定めたのであらうと思つた。だから、例年、お盆の棚経に参上する旨を各家に通知しているが、そのお宅には、「奥さまの初盆には新たにご縁を結んだお寺さまがお見えになるのであらうから、今年から遠慮する」としたためた。ところが、どうだろう。そのお宅から「お盆には是非、来て欲しい」とのご連絡をいただいた。結局、

これまで通り、今もなお伺いすることになっている。

御高齢者の御当主は、ここ一年で認知症の症状が進んだという。今年のお盆は、デイクアに通う日に当たっており、息子さんが一人に対応して下さった。認知症介護の御苦労をお聞きするなか、「オヤジ、家にいると仏壇の脇のお袋の写真の前に坐ってずっと念仏称えているんですよ。それと、仏壇の前に水を張ったお皿を置いて、手を洗う真似をするんですよ。認知症だから、皿出したしりましたり何回も繰り返し返すんだけど、いったい何やつてるんですかね」と尋ねられた。

棚経や施餓鬼会で僧侶が施す「水向け」の作法のことだと思った。息子さんに「水向け」の説明をした。とはいえ御当主とお寺との縁は拙寺の棚経くらいしかない。仏壇に「水向け」のしつらえがあつたためしもない。ならば、当代は、いつ、どこで「水向け」を知つたのであろうか。遙か遠い記憶のなかに、僧侶が「水向け」の作法を施す光景が刻まれていた、としか思い浮かばなかつた。

当主は長患いの奥さまをずっと介護してきた。そして、奥さまを見送つた。仏壇に手を合わせ、欠かさずにご供養もしてきた。奥さまが、もうこの世にいないことは分かっている。もはや、お念仏を称えるしかないことも分かっている。

る。それでも「今、何かしてあげられることはないか」と、そう強く思ったの
 だろう。そして、その時、遙か遠い記憶の底にあった「水向け」の光景が蘇っ
 たのでないだろうか。幼心に「あれは何やっているの」と親御さんに尋ね、「あ
 あすると亡くなった人に食べ物が届いて、お腹いっぱいになって喜んでくれる
 んだよ」と教えてくれた声が再び聞こえてきたのではないだろうか。

御当主は今もお奥さまのことを深く想っている。たとえあの世にしようと
 も幸せになつて欲しいと、ひたすらに願っているのである。同じ状況下で、は
 たして私にそうできるであろうか。「参った」と思った。理屈屋で気難しい御
 当主がいかに人間くさい、愛すべき人に思えた。

阿弥陀さまは、何故、仏になろうと思ったのだろうか。誰を救おうと思つた
 のだろうか。阿弥陀さまはもともと血の通つた人間であつた。大切な誰かを、
 ずっと、ずっと想い続けている人をお嫌いであるはずがない。「分かるよ、そ
 の気持ち」と言つてくださるはずだ。「心ざしを末法のわれらに送り給う」。阿
 弥陀さまは私たち人間のことが大好きで放つておけないのだと思う。

(袖山榮輝)

第二十三回

江戸の川 を歩く

江戸ウォーカー

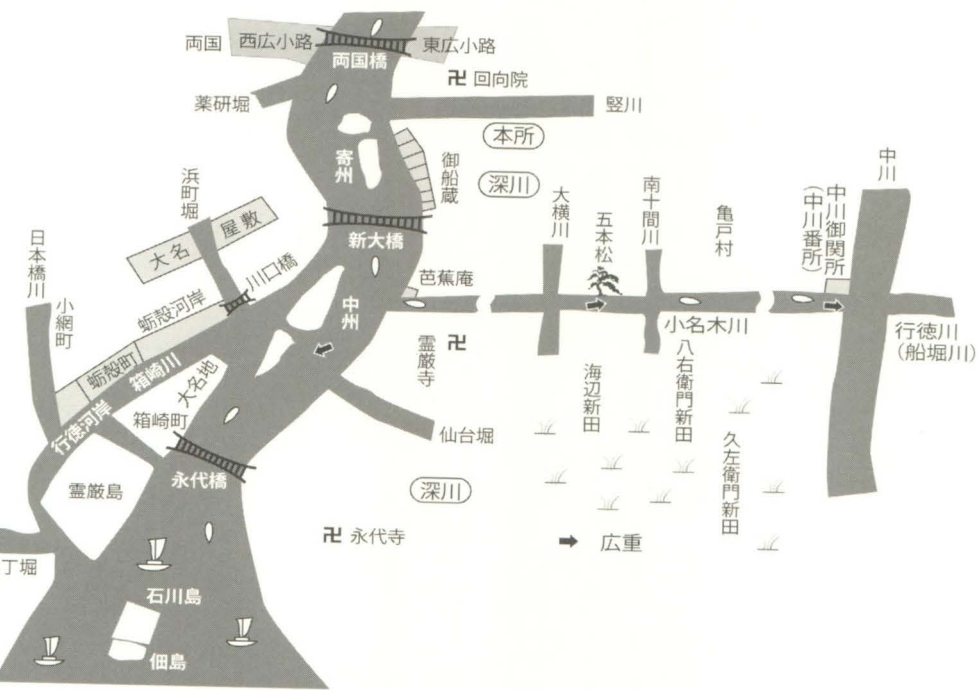
森清鑑

大川(隅田川)河口

舟は両国橋を潜って江戸湾に向かう。巨大な橋、両国橋。まさしく武蔵国と下総国(しもうたのくに)を結ぶ両国橋。長さ九十六間(約二百メートル)、幅八メートル。幕府は、それまで千住大橋以外の橋造りを禁止してきた。一転、一六五九年両国橋を着工。その理由は一六五七年の明暦の大火。逃げ、行き詰まった大勢の人が焼死。そこで、橋と同時に両サイドに広い火除け地、広小路を設ける。

大きな橋を潜ると、右手、芝居小屋の幟(のぼり)が高く立ち並んでいる。広い両国西広小路は、火災の恐怖が失せるとともに、いつしか芝居小屋や見世物、催し物、茶店で一杯になる。しかし、いざという時にはすぐに撤去できる簡易小屋だ。後年、江戸っ子は、両国橋と言えばこの広小路のにぎわいを思い浮かべるほどになる。橋の左側、東広小路を見ると、雰囲気はまるで変わり、御家人屋敷で閑静そのもの。回向院の大屋根瓦が一際

目立つ。右側、芝居小屋の幟が絶えると薬研堀(やげんぼり)。漢方薬を碾く道具、薬研に似たV字型掘削の堀。その名に、ちなんだ大木唐辛子屋が大繁盛、江戸の名物になる。ここからが本来の「大川端」(おおかわばた)。背後には武家屋敷が建ち並んでいる。ここで、舟の左を見ると大きな運河を目にする。堅川(たかがわ)という。堅川は一六五九年に掘削された大運河で、江戸城から見て縦に掘られた運河なので「堅川」と命名。この運河は、江戸期、材木の運搬に大活躍した。大川の入り口に、「一つ目の橋」が架かっている。そしてこの橋から江戸湾に向かって大きな倉庫が十四棟も続く(約五千坪)。これは偉容な光景である。これが、幕府専用の御船蔵(みふねくら)。船の収容施設だ。しかし、將軍専用の巨大な軍船「安宅丸」は収容しきれず、倉庫群の前に係留されていたようである。細長い御船蔵群の前には、寄州(よりす)が広がっている。寄州とは、土砂が風、波で吹き寄せられてできた州のこと。これは風情ある川の自然美をもたらしと同時に、船倉の防波堤のような役割を果たしていたと思われる。この堅川を挟んで、地名は本所から深川へと変わる。この辺りは、御家人と町民の住宅が混在している。御



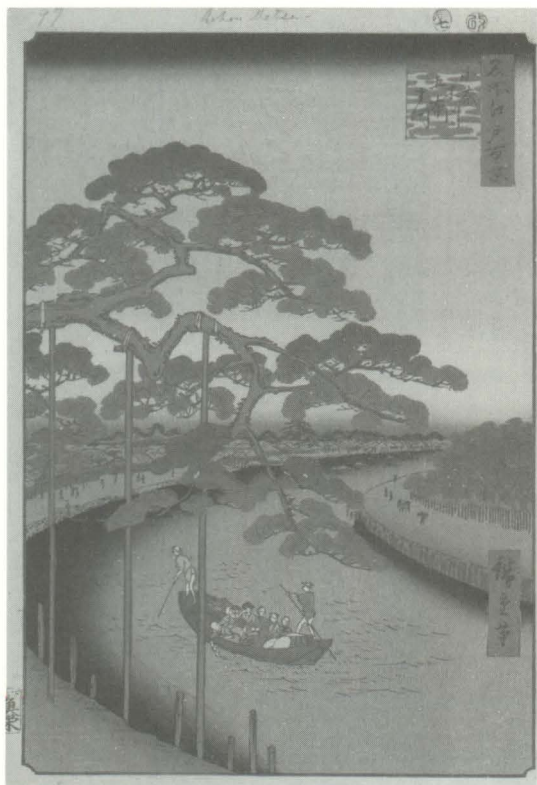
大川 (隅田川) 小名木川

船蔵が終わると、そこに新大橋が架かっている。この橋の建造は一六九四年（元禄六年）。隅田川に架かる三番目の橋となる。江戸庶民の嘆願に基づき、將軍綱吉が建てたもので、長さは百十六間（二百八メートル）。芭蕉庵に住まいしていた松尾芭蕉は、新大橋の完成していく様を見て、こう詠んでいる。「ありがたや いただいて踏む はしの霜」。庶民待望の架け橋であった。芭蕉の住まいから工事の様子が十分に見られたは

ずである。

小名木川

芭蕉庵から横一線に伸びる運河が小名木川である。家康の江戸造りは、湿地帯の埋立て、領地拡大策と物資運搬の運河造り、から始まった。彼は、一五九〇年



広重：小名木川五本松：前方が行徳方向

江戸入府と同時に日比谷湾に流れ込む暴れ川、平川の流れを遮断し、東、つまり隅田川方向に変える。そのため、道三堀と日本橋川を掘削。隅田川に出た処で、対岸の湿地帯に運河を掘る。これが小名木川である。開削工事の責任者は、小名木四郎兵衛。この運河は重要な使命を持つ。まず、第一は、急激に膨れる江戸民への食糧供給。当時、行徳は良質な塩の名産地。そこで、行徳の塩田から塩を運ぶ安定ルートを作る。第二には、人も住まない湿地帯（深川）を遮断し、陸地に変え、海に向かって埋立、領地拡大の橋頭堡^{きょうとうほ}とする。こうして武士、江戸庶民、寺社が流入し、深川を形成。後に、深川は立派な江戸の中核と化す。全ては、この小名木川の開削から始まったのである。深川の開拓責任者は深川八郎衛門。周辺の湿地帯を陸化し、さらに海に向かって海辺新田を造成。小名木川は当初、塩のルートであったが、後には農産物運搬に拡大。江戸庶民になじみ深い小松菜、果ては東北地方からの年貢米の輸送ルートになる。さらに成田参詣客など人々の運搬ルートとなり、行徳船や長渡船^{ながわたぶね}（十五〜二十四人乗り）が頻繁に行き交うことになる。

小名木川周遊

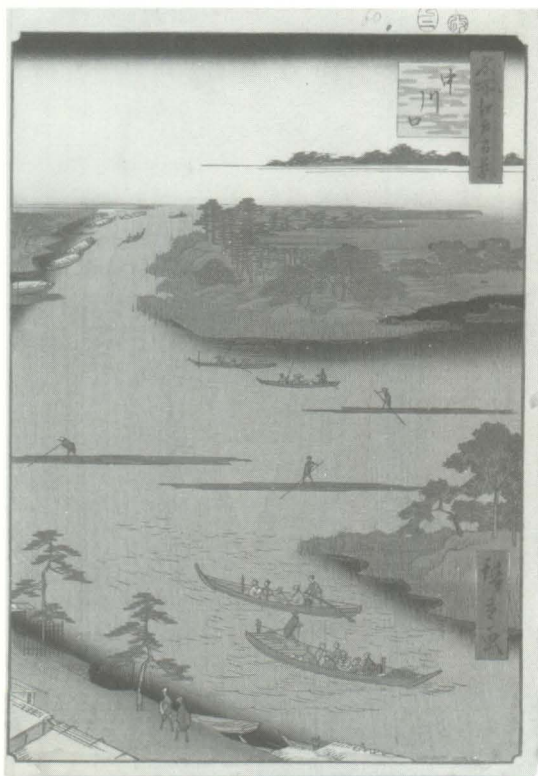
芭蕉庵を左に曲がって小名木川に入る。様々な舟が行き交っている。万年橋を潜る。前方を見ると運河は真っ直ぐ延びている。右側、海辺新田、大工町、そして靈岸寺。左側は、大名下屋敷。すぐに、南北一直線の大横川（江戸城から見て横一線）にぶつかる。これを突っ切り真っ直ぐ。右手、海側は海辺新田が多くなる。左手は御家人などの武家屋敷。狭い九鬼の下屋敷。ここに五本松があった。広重の時代は一本松。小名木川に被さるように枝がでている。下を通るのは行徳船。五、六人の客を乗せ、行徳に向かっている。船頭は二人。左は家並み、右は自然風景。それぞれ道があり、人々の歩く姿も見える。

すると直に南北の堀、南十間川の十字路。左は川沿いに深川大島町の民家。右には八右衛門新田や久左衛門新田が広がる。これらは埋立新田開発者の名を取っている田圃。ところ処に大名の抱地^{かかぢ}が点在。なんにし

ても広々とした田園風景。やがて亀戸村の田圃が目につくようになり、広い南北に流れる中川に到達する。そこを中川口という。広重はこの光景を見事に描写している。中川口の左に中川御関所、中川番所がある。船番所である。ここで荷物や通行人がいちいちチェックされるのである。小名木川はここまでで中川の対岸に描かれている川が船堀川である。処の人々はこれを行徳川と呼んだ。これを直進すると江戸川にぶつかり、

そこが行徳。これも小名木川と同時に掘削された塩のルートで新川ともいう。

中川もその昔、利根川であった。氾濫を繰り返すため銚子に瀬替え。関宿から支流とした。これが中川。従って東北方面からの物資を利根川へ運び、中川へ。小名木川経由で江戸に運ぶことが可能になった。広重、中川口の絵の中央に描かれ、材木乗りが巧みに運んでいる。



広重：中川口：左下に舟番所。中央左右に中川。前方、船堀川

大川河口

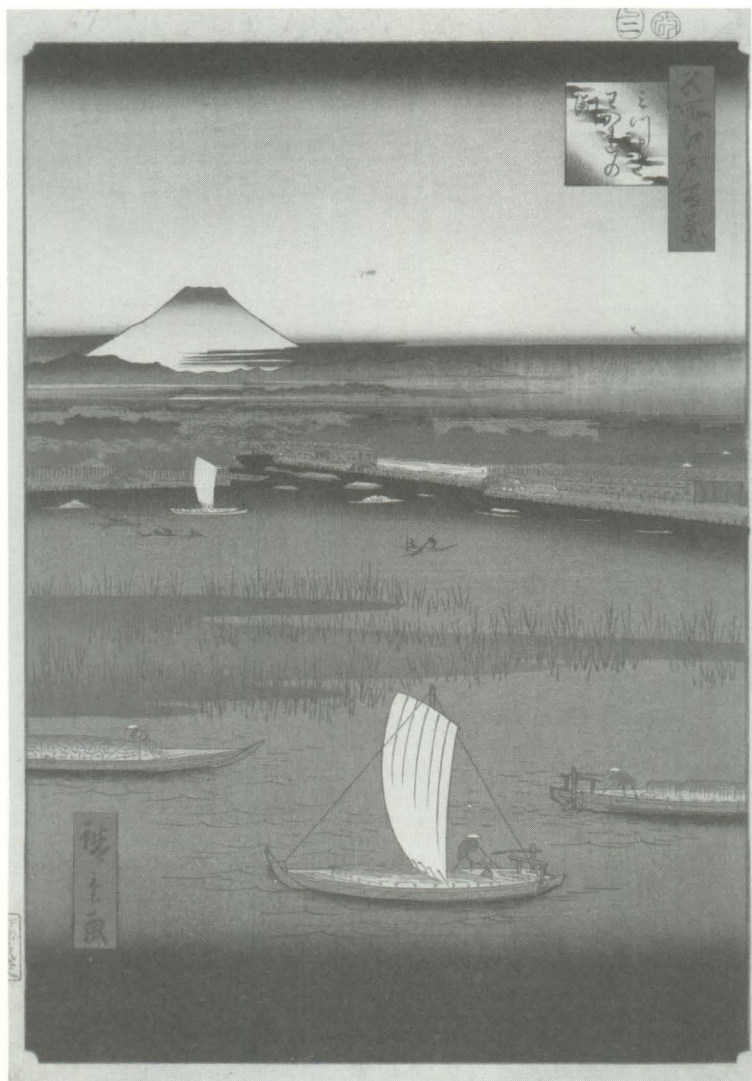
小名木川を戻って再び大川へ。大川の川幅はぐんと広がり、正面に中州が見える。中州とは土砂が堆積しているところ。家康が江戸に入府した頃には、この辺り、もうすでに江戸湾で、島が二つあった。掘削した日本橋川はここに流れ込み、塩運搬のルートは対岸の小名木川へとほぼ直行していた。その後、二つの島は埋立が進み、広大な箱崎島（町、大名屋敷）と霊岸島が形成される。大川は、箱崎の先端で二つに分かれ、これに中州を挟むと三つに見える。そこでところの人々は、この辺りを「みつまた」と呼んだ。葦が茂り、生物の宝庫、鳥が舞う中州の自然美と合わせ、中秋の名月を見る舟で賑わった。箱崎の北端を行く箱崎川を行く。右岸は新大橋からの大名屋敷。浜町堀が川口橋を潜って流入し、それから蛸殻河岸が続く。蛸殻町の細い町並み。そして行徳河岸。そこに日本橋川が小網町を経て、流れ込んでいる。行徳に行く人々はここか

ら舟に乗り込む。左は箱崎町の町並みと大名屋敷である。

箱崎の整備の結果、大川の本流は今の幅になり、ここに深川と繋げる永代橋が架けられる。

この橋は、元禄十一年（一六九八）、將軍綱吉五十歳を祝う記念事業として架橋され、当時の名刹、広大な深川、永代寺にちなむ。

これから先、霊岸島の南、海上に、埋立拡張、整備された石川島と、これに寄り添うように佃島が浮かんでいたのである。



広重：みつまたわかれの淵：中央に中州、富士の下に箱崎川への入り口、右に大名屋敷が描かれている。

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月を求めて

前田和男

第九十回

第三部

充実と稔りの白秋へ

大逆事件と浄土宗



★前号までのあらすじ

時は明治の中葉。家業が傾き寺に出された渡辺芳蔵は小石川源寛寺住職端山海定の下、十五歳で得度し「海旭」を名乗る。将来の宗門幹部として浄土宗学東京支校（現芝中・高校）、同本校（現・大正大）へ進学を許され、明治三十三年（一九〇〇）、浄土宗海外留学生として仏教再生の興望を担い、印度学の拠点ドイツはストラスブルク大学へ留学。碩学ロイマン教授の薫陶を受ける傍らキリスト教改革派、社会主義者らと交わり、社会福祉事業など仏教以外の知見を深める。留学四年目、バーゼルの万国宗教歴史学会で研究発表、仏教に造詣が深いオーストリアハンガリー帝国元駐日代理公使クーデンホーフ伯と出会う。また、ヨーロッパ初の比丘ニヤーナティ口力の存在を知らされ強い興味を覚える。一方盟友・荻原雲来が博士号を取得して帰国、残された海旭は母トナと導きの師・端山海定逝去の悲報に耐えながら博士号を取得するも宗門から給付金を打ち切られる。東大教授・姉崎正治の仲介で富豪カーンに援助を求めるが断られ万策尽きたところへ、ドイツ駐劄日本大使の珍田捨己から援助の手が差し伸べられ、海旭は悩んだ末に相思のドイツ女性の勧めを受け入れ、シベリア鉄道で帰国の途へ。途次奉天で新仏教運動で知り合った満蒙の外交官・北条大洋と再会、大アジア主義に共感を覚える。そして、いよいよ十一年ぶりに祖国の土を踏むと、大事件が待ち受けていた。世に言う「大逆事件」である。

「天皇制」を逆手にとって容疑者を救う

十余年ぶりに帰国したとたん、渡辺海旭は、いきなり「大逆事件」に遭遇、容疑者の中に多くの僧侶がふくまれていたことに衝撃を受け、「仏教者が天皇暗殺を企てるはずがない、どこおかしい」という深い疑念を覚えた。

海旭の衝撃をいっそう大きくしたのは、「首謀者」を出した曹洞宗、浄土真宗大谷派、臨済宗妙心寺派がこぞって、俗悪な世論と国家権力におもねって、それぞれの僧侶を「宗内濱斥」、つまり僧籍を剥奪し所属教団から永久追放したことだった。

こうした宗教界の動きに対して、徳富蘆花はこう指弾した。

「出家僧侶、宗教家などには、一人位は逆徒の命乞する者があって宜いではないか。しかるに管下の末寺から逆徒が出たといつては、大狼狽で破門したり僧籍を剥いだり、恐れ入る奉るとは上書しても、御慈悲と一句書いた

ものがないとは、何という情ないことか」(徳富健次郎／中野好夫編『謀叛論他六編・日記』岩波文庫、十九頁)

この蘆花の批判に海旭は、仏教界の末席につらなる身として内心忤怩たる思いをいだきながら、「首謀者」を出さなかったからといって、わが宗門も無関心ではいられないと思った。

実は大逆事件に連座したことを疑われた中に、浄土宗の僧侶もいたのである。

長野の名刹・善光寺の丸茂天霊である。

丸茂は、「長野グループ」の中心人物で死刑

に処された新村忠雄とは小学校時代から交わりがあり、彼から社会主義思想の感化を受けていた。明治四十三年五月二十五日、新村忠雄は故郷の実家で家宅



長野善光寺全景

搜索を受けてそのまま逮捕。その二日後、丸茂も長野警察署に逮捕拘留される。新村が「平民社」の解散により帰郷した折り、丸茂宅に立ち寄り、幸徳秋水のことを語ったというのが事件連座を疑われた理由であった。

これを知った善光寺では僧侶たち数人が仲間を語らって、その夜、長野署に押しかけ、丸茂の釈放を求めて、署長に面会をもとめた。その時の僧侶の代表の弁がふるっていた。いわく――

「わが善光寺は皇極天皇より勅をいただき、爾来天皇とは親しい間柄である。しかるに警察はたかだか四十年の歴史しかない。代々皇室に代えてきた我々を不敬の徒と疑うはそちらこそ不敬の徒ではないか。不敬の徒には善光寺の土地を貸しておくわけにはいかない。即刻土地を明け渡せ」

長野警察署の土地は善光寺の借地であつ

た。これに驚いた署長は、洪々ながら要求を受け入れ、「他言は無用」を条件に丸茂を「無罪放免」としたのである。

いつてみれば、天皇制を転覆しようとしたという「容疑」に対して、天皇制を逆手にとって論破したわけで、なかなかしたたかな戦術といえた。

もしこれがなかったら、浄土宗からも「首謀者」が出て、宗門中枢は、内山愚童の曹洞宗、高木顕明の浄土真宗大谷派、峰尾節堂の臨済宗妙心寺派と同じく、世間と国家権力に付度して、善光寺の僧侶・丸茂天霊の僧籍を剥奪し、教団から永久追放していたことであろう。

この「機転の作戦」は、仲間の僧侶を救っただけでなく、俗悪世論と為政者におもねったという汚名からも宗門を救ったことになる。

宗教者の鑑、西沢学雄

上記の長野善光寺のエピソードは、もちろん

ん真正面から「時の為政者」と対峙し、その不当な人権蹂躪を指弾したものではない。奇策をもって巧みにかわしたにすぎない。おそらく徳富蘆花からは「僧侶にあるまじき詭弁のだまし討ち」とそしられかねないが、いっぽうで、もし蘆花が知ったら「あっぱれ、これぞ宗教者の鑑」と大いに褒めたであろう事例が、同じく長野県の同じ浄土宗の寺門にあったのである。

それは、幸徳秋水に心酔して事件に連座した兄弟の戒名にまつわる物語である。

弟は新村忠雄。「大逆事件」で被告人となった二十六名、処刑された十二名のうちでもっとも若年のわずか二十四歳で断頭台の露と消えたが、首魁の幸徳秋水、菅野須賀子、曹洞宗僧侶・内山愚童とともに、最後まで信念を貫きとおした思想堅固な傑物であった。それは、忠雄の予備調書の「(国民生活の)悲惨な状態をみて、その救済策をいろいろ考えましたが、社会主義を実行するほかに途はない」

との発言にも明らかである。（『更埴市史第三巻近・現代編』平成三年発行より）

兄は新村善兵衛。弟と同じく社会主義に傾倒して事件に連座したが、証拠不十分で「大逆罪」を免れ、十一年の有期懲役の判決をうけて千葉刑務所に服役、大正四年に仮出獄するもその五年後に大阪で客死。享年三十九であつた。

大正十三年まで生存したと伝えられる新村兄弟の母親やいは、生前に、悲運の我が子二人のために、新村家の菩提寺である長野県は千曲市屋代の浄土宗知恩院派関谷山生蓮寺に墓石を建立しているが、そこには、それぞれの戒名と俗名と没年が、なんとも驚くべき内容で、こう刻まれている。

賢・救・民・忠・雄居士

明治四十四年一月廿四日亡 新村忠雄 行
年二十四才

禮・誓・至・德・善・雄居士

大正九年四月二日亡 三代新村善兵衛 享年三十九才

（傍点は筆者）

まず注目していただきたいのは、それぞれの戒名である。弟の忠雄には「救民」、兄の善兵衛には「至德」の「尊称」が盛り込まれている。畏れおおくも天皇陛下を弑殺しようとした「大逆の極悪人」を「義」と「德」の人と評価するとは、これ自体が大逆・不敬の罪に問われかねない。



左端が新村善兵衛、忠雄兄弟の墓



戒名の一部に盛り込まれた「救民」（弟・忠雄）と「至德」（兄・善兵衛）

もう一つは、刑死した弟の没年齢を「享年」ではなく「行年」としていることである。

「享年」とは、天から享（う）けた年数という意味であり数え歳で記されるが、「行年」はこの世に生まれて何歳まで修行をしたかを意味し、したがって満年齢で記される。兄を「享年」、弟を「行年」としていることには、「救民」という「義の行い」のために二十四年を全うしたという称賛がこめられており、裏をかえせば、その「義の人」の余命をわずか二十四歳で奪った「時の権力」に対する批判がこめられていることはいうまでもなからう。

これがいかに「畏れおおくも異例のこと」であったかは、首魁の幸徳秋水の墓のありようと比較すれば、歴然としている。ちなみに幸徳の墓は出身地の高知県は四万十市の正福寺にあるが、戦後それを墓参した作家の上林暁が「戦争中は訪れることの出来ぬ禁断の墓だった。（略）『幸徳秋水墓』という文字があるだけで、その他に目立つものは何もなかった」

た」と記しているように、戒名も墓誌もなく、戦前までなんと鉄格子がはめられ刑死後もお当局に厳しく監視されていたのである。



幸徳秋水の墓

いったいぜんたいこんな「畏れおおくも異例なこと」をやった僧侶とは誰なのか？

それは、当時、新村家の菩提寺である浄土宗生蓮寺の住職であった西沢学雄である。

大逆事件に連座した人びとは、当人はもとより親族縁者や友人知人までもが世間から指弾をうけ、一生涯「日陰者」としてひっそりと生きることを余儀なくされた。

実際、事件後、新村兄弟の母校である屋代小学校の宮入校長は、以下のような談話を発表している。

「斯かる逆徒新村兄弟を屋代町から出し、また、屋代小学校に学びし事ありしは如何にも不名誉なり」

西沢学雄が住職をつとめる寺はまさにこの屋代小学校の校区にある。檀家の多くはその卒業生であり、その子弟のほとんどは同校へ通っていたはずである。それを思うと、学雄住職の仏教者としての信念と勇氣、そして見識の高さには驚嘆を禁じ得ない。

おそらく、檀家をはじめ地域社会からは、さまざまな圧力と指弾をうけつづけたことだろう。

この逸話を伝える池田千尋師によると、「学雄上人にたいする非難も相当なものであったらしいが、和尚はいつさい弁明しなかったそ

うである」と記している。

「社会主義冬の時代」到来の予感

ところで、わが渡辺海旭は、この長野県の浄土宗の寺でのエピソードを知っていたのだろうか？ 海旭が主筆をつとめる「浄土教報」をふくめて文献にあたってみたが、海旭によると思われる西沢学雄への言及は一行たりとも見つけられなかった。

では、知らなかったのか？ 西沢学雄の寺は浄土宗でも知恩院派なので、情報が入らなかったとも考えられる。ただ、西沢ほどの人物であれば、増上寺派にとっても「厄介な有名人」として知られていた可能性は十分にある。

だとしたら海旭は知っていても、あえて無視を決め込んだことになる。

俠客坊主なら「よくやった、これぞ宗教者の鑑だ」と快哉を挙げそうなのに、そうしなかったのは、なぜなのだろうか？

渡辺海旭は俠客坊主であるいっぽうでリアリストでもあった。おそらくリアリストの海旭には、留学直前までのドイツがそうであったように、大逆事件後の日本にも、長い長い「社会主義冬の時代」が間違いなくやってくるといふ「既視感」があったからではないだろうか。

御託をならべるのは趣味ではない。実践してこそ仏教、そこにしか仏教の再生はない。ドイツで社会主義者やキリスト教の改革派から学んだのはそれである。「正しいこと」をいくら叫んでも、時代の流れを逆転させることはできない。時代の流れに乗りながら木橋を着実に実現をしていくしかない。

そもそも海旭が留学直前につくられ海旭自身も中心メンバーである新仏教同志会は、幸徳秋水や堺利彦ら社会主義者たちとは「相思」の間柄にあった。それが海旭が留学して五年が経った明治三十八年十月、日露戦争に対する主戦論が世論を主導するなか、非戦論を唱

える「平民社」は解散に追い込まれる。

当局の弾圧と財政難、内部の思想対立が理由とされるが、解散後は日本の左翼運動はキリスト教社会主義者とマルクスの唯物論による社会主義者に分裂。この分裂解散劇の数ヶ月前に幸徳秋水は筆禍事件で投獄され、入獄中に議会主義に疑問を抱き、出獄後渡米。そこで無政府主義の洗礼を受け、翌明治三十九年に帰国すると合法的議会主義を批判、無政府主義的な直接行動論を主張するようになった。

そんななかで、海外にあった海旭は、社会主義者とも親しく交わり、彼らが貧しい大衆から支持されていることに力を得て、日本政府が社会主義を安圧することは日本の国のためにはならないと、警鐘を打ち鳴らした。社会主義者をうまく使えば、社会改良に役立つという主張である。

しかし、政府は無名の一留学生の意見を入れるはずもなく、社会主義者への弾圧をつづ

古き伝統技 三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門

古島法衣店

〒111 東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)384211289

振替 0018002145231

け、ちょうど海旭が帰国して二か月たらずの明治四十三年五月、大逆事件が起きたのである。

それまで社会主義者にいくらかは同情的であった大衆も、社会主義から離れていくのを冷徹に見ながら、リアリストの渡辺海旭は、社会主義と社会主義者に距離感をもつようになつたのではなからうか。

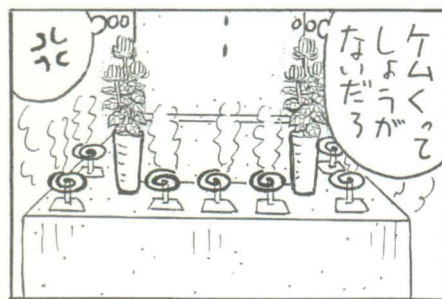
前年には安重根がハルビン駅頭で伊藤博文を暗殺、翌年、海旭が帰国した年に日本は韓国を併合、石川啄木が「地図の上 朝鮮国にくろぐろと 墨をぬりつ、 秋風を聴く」と詠んだように、暗い濁流が一気に押し寄せてきて、それを押しとどめることはとうていできないと、リアリストの海旭は判断したのではないだろうか。

(つづく)

参考文献…眞田芳憲「大逆事件と禅僧内山愚童の『仏教社会主義』とその行動の軌跡」中央学術研究所紀要第45号、2016年11月15日

153 かい目 さっちゃんはネッ

かまち♡よろう



雨も暑さも命に関わるものとする 岱潤

それにしても今年の夏の天候は、日本全国異常としか言えないものだった。強い雨が降り続いた地域、三五度を超える猛暑が全国で続き、亡くなる方も大勢出た。そして、当に命に関わる天候であった。そして、驚かされるのが、現政権の支持層だ。気象庁が声を上げて警戒を呼びかけていたときに宴会を開いていたと思えば、いち早く復興に取りかかるべき時に、カジノ法案の成立に躍起となっていた。また、何はともあれ核兵器の存在に「ノー」を言うべき被爆国日本が、橋渡しをするなど理由にもならないことを言いつて、核保有国の側に立つという驚くばかりの政権に、今なお四割以上の人が支持しているという。どのように理解していいのか全く解らない事実である。多数決の恐ろしさを感じる昨今である。ソクラテスも多数決で死刑になり、ナチスドイツも選挙で正当に選ばれた党である。トランプや安倍政権が五〇年後どのように教科書に載るか楽しみである。

安倍チルドレンたちが最近「LGBTの人は子を産めないから生産性がない」と発言したり、あの人たちは「趣味趣向だ」などと発言したりとこゝろ活発だ。大物議員も「間違っていない」と太鼓判を押す。

雑誌『浄土』 特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
 巖谷勝正(日根・祐天寺)
 魚尾孝久(三島・願成寺)
 大江田博導(仙台・西方寺)
 加藤昌康(下北沢・森巖寺)
 桑原恒久(川越・蓮馨寺)
 桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
 佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
 佐藤成順(品川・願行寺)
 佐藤良純(小石川・光圓寺)
 東海林良雲(塩釜・雲上寺)
 須藤隆仙(函館・称名寺)
 高口恭典(大阪・一心寺)
 中島真成(青山・梅窓院)
 中村康雅(清水・実相寺)
 中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
 成田昌憲(世田谷・大吉寺)
 野上智徳(静岡・宝台院)
 藤田得三(鴻巣・勝願寺)
 堀田卓文(静岡・華陽院)
 本多義敬(両国・回向院)
 松濤泰彦(芝・寶松院)
 真野龍海(大本山・清浄華院)
 水科善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp/>
 メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

している。この若者たちは今まで何を学んできたのか、それとも学校の勉強すら学んでこなかったのか？ 国会議員になる人間の資質を疑うばかりだ。(長)

編集チーフ 編集スタッフ

長谷川岱潤
 斎藤晃道
 佐山哲郎
 青木照憲
 村田洋一

浄土

八十四巻九月号

頒価六百元
 年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成三十年八月二十日
 発行 平成三十年九月一日

発行人 佐藤良純
 編集人 加藤昌康

印刷所 株式会社 晩印刷

〒一〇五〇一一

東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三)五七八六九四七

FAX 〇三(三)五七八七〇一七

振替 〇〇一八〇・八・八二二七

写経と写詠歌セットのご案内

特徴① 奉書の手本に筆ペンで直接なぞる

特徴② 法事や行事の待ち時間で写せるA4判

特徴③ 手本は当会オリジナル

特徴④ 「写経セット」は浄土宗日常勤行式。

特徴⑤ 「写詠歌セット」は宗歌と四季の和歌。



従来の写経と異なる薄墨をなぞる写経と写詠歌のセットです。扱いやすいA4版で筆ペンで写せます。手軽にかつ短時間でできる新しいタイプの写経、写詠歌ですが、高級奉書を使用していますので、墨と毛筆でも写せます。法事や各種行事、詠唱会の待ち時間に、朝夕のお参りの前後に、新たな写経・写詠歌行事にご利用下さい。

申込日 年 月 日

御名前 電話 ()

御住所 〒

《御寺院欄》 教区 組 寺・院 寺院番号

①写経セット 領価:12,000円(税込) 関東・関西 セット
(1組12枚、10組入り) ※寺院名 () を入れる・入れない

※関東版(三奉請)、関西版(四奉請)に丸をおつけ下さい。

②写詠歌セット 定価:10,000円(税込) セット
(1組5枚、20組入り)

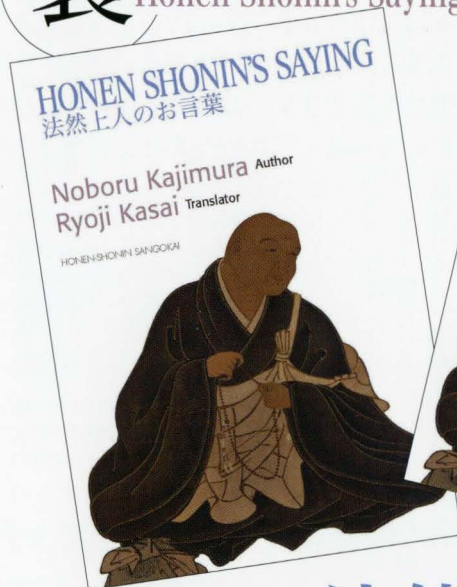
※写経セットの寺院名入れは無料です。ご希望の場合は寺院名をお書き下さい。
※消費税と発送料は領価に含んでいます。商品お届け時の請求書にてお支払い下さい。
※ご注文をいただいてからお届けまで3週間ほどかかりますので、ご了承下さい。
※1組からご注文ご希望の方はFAXにて当会にご相談下さい。

《本頁をコピーの上、注文を記入して、法然上人鑽仰会へ
Fax (03-3578-7036)、メール (hounen@jodo.ne.jp)、または
郵送(〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階)下さい》

月刊浄土の連載が 単行本になりました。

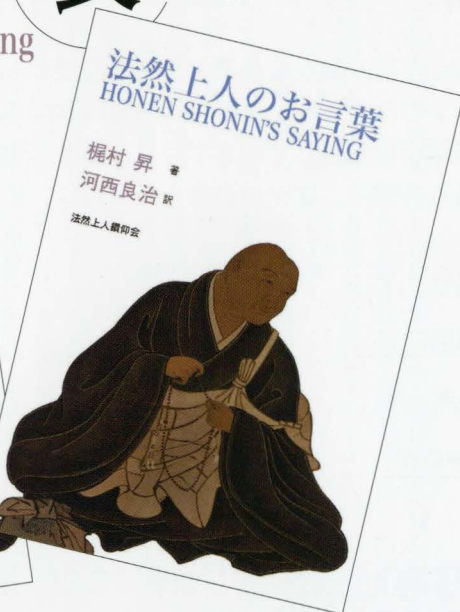
裏

左開きで英文の
Honen Shonin's Saying



表

右開きで和文の
ご法語



和英対応法然上人のお言葉

梶村 昇・著 河西良治・訳

ご法語と解説が和文と英文で一冊になりました。
外国の方のお土産にも最適です。

A5判・124ページ 頒価 1,000円(税別)

法然上人讃仰会だから
こそ作れる
オリジナル単行本です。

法然上人讃仰会 FAX : 03-3578-7036

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館4階

※お問い合わせは、Fax またはメール

hounen@jodo.ne.jp へお願いします。